アレブリヘ

100ねんいじょうまえ、メキシコシティに、ペドロ・リナレスという
げいじゅつか がいました。あるひ、かれはおもいびょうきにかかり、
ふかくふかくねむっていました。すると、かれはゆめのなかで、
もりのなかにある ふしぎで きみょうな まほうのくに へまよいこみました。
き や どうぶつ や、いわ や くも が みたこともないようなどうぶつに へんかしました。
ちょうのはねをもったロバに、うしのつのをあたまにのせたニワトリに、
タカのあたまをしたライオンに、さまざまなどうぶつをみましたが、
みんな、おおごえをあげてさけんでいます。

「アレブリヘ！アレブリヘ！」

するとかれは とつぜん めがさめて、
どうぶつたちが、じぶんをびょうきからまもって たすけてくれたんだとかんじました。
そしてびょうきがなおるとすぐに、そのどうぶつたちのさくひんをつくりはじめました。

メキシコでは、たくさんのげいじゅつかが、コーパルというとくべつなきをつかい
アレブリヘをつくっています。アレブリヘはメキシコのひとたちにとって
しんせいなそんざい です。どのアレブリヘも、あいと、じょうねつと、
ながいじかんをかけられ、たいせつにつくられ、1つの1つのアレブリヘには
それぞれにとくべつなちからやメッセージがこめられています。